

研究主題

課題を自分事として捉え、互いの考えを認め合いながら解決できる児童の育成
～持続可能な社会づくりの担い手を育てる学習を踏まえた授業を柱に～

1 単元名 「未来へつなごう! 成長のあしあと」

2 単元の目標

これまでの自分自身や友達、学級の成長を振り返る活動を通して、自分たちにはできるようになったことがたくさんあることに気づき、その努力や支えてくれた人々の存在について考えることができる。また、進級に向けて、自分自身、そして学級のみinnで成長したいという願いをもち、意欲的に生活しようとする。

3 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 自分が成長したことやできること、役割が増えたことなどに気付いている。 ② 自分や友達の成長やよさに気づき、認め合うことができている。 ③ 様々な人の支えによって自分が成長してきたことに気付いている。 ④ 進級に向けて、自分や学級が成長していくために必要なことに気付いている。	① 自分や友達の成長を考えたり伝えたりしている。 ② 自分の成長について調べたことや分かったこと、考えたことなどの中から、伝えたい事柄を選んで、内容に合った方法で工夫して表現している。 ③ 中学年のことを知るために、調べる対象や内容を考えている。 ④ 進級に向けて、自分や学級の目標を考え、伝え合っている。	① 自分や友達のこれまでに振り返りながら、できるようになったことやよさなどの成長を、積極的に見つけようとしている。 ② 人との関わりの中で成長したことを自覚し、これからの成長に意欲をもっている。 ③ 中学年の生活に興味をもち、意欲的に調べようとしている。 ④ 中学年の生活への期待や目標をもち、意欲的に生活していこうとしている。

4 本研究を踏まえて

(1) 本単元がもつ教材としての意義

本単元は、小学校学習指導要領の「(9)自分の成長」の項目に重点を置き、「(2)家庭と生活」「(8)生活や出来事の伝え合い」の項目と関連させながら活動を進めていく。本単元では、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長へ願いをもって、意欲的に生活しようとする学習である。

1学期の生活科では、1年生と学校探検をしたり、朝顔の種を植える手助けをしたりと、下級生との関わりの中で自分の成長を感じる児童が多くいた。また、体育祭や学習発表会等の行事を通して、ダンスや演奏の技術面のみならず、集中して話を聞くことや自分の目標をもつことなど、内面的な成長にも気付くことができた。

これまでの学級活動では、学級の課題を話し合い、短期目標を立て目標達成に向けて継続的に励んできた。また、国語科「話す・聞く」の単元では、話し合うときの傾聴の姿勢について様々なアイデアを出し、実践してきた。本単元では、これまでの他教科の活動と関連させながら、課題を自分事として捉えたり、友達の考えを受け入れたりする力がより伸びていくと考える。

(2) 本単元を学習する上での児童の実態

【課題を自分事と捉えることに関わる実態】

本学級では、学習に対して興味関心が高く、意欲的に楽しみながら学習に取り組むことのできる児童が多い。一方、「先生、何をしたらいいですか。」「どうしたらいいですか。」など、自分で考えたり行動したりする前に大人や友達に助けを求め、自力解決を試みる経験が乏しい児童も多にいる。また、学習や生活のなかで、目標を達成するために努力できる児童もいるが、進級に向けて、みんなで成長したいという思いをもつ児童は、現段階ではほとんどいない。

一学期に実施したアンケート調査では、本学年の13%の児童が、生活科の学習において、めあてを自分で立てている意識がないことが分かった。児童が課題を自分事と捉えるためには、自分たちで課題の解決方法を考えたり選んだりすること、そして自分たちが決めた方法で課題の解決に向けて励む経験が必要だと考える。

【互いを認め合うことに関する実態】

1学期初めてのクラス替えを経験した児童は、交友の輪が広がる喜びを感じる一方、自分とは異なる考え方を受容できずにぶつかりあったり、他者のよい面よりも、失敗や間違いに目を向けてしまったりすることが多くあった。授業では日々たくさんの意見を出し合い、多様な考え方に触れられることが集団で学ぶことの価値であることを伝え続けてきた。その効果もあり、自分と異なる考え方を「そんな考え方もあるのか。」と、受け入れられる児童が増えてきたように感じる。また、教員が褒める見本を見せたり、友達の頑張りに目を向けている児童を価値付けしたりしてきたことで、友達のよいところを探そうとする児童も増えてきた。褒められる喜びを友達にも感じてほしいという児童の優しさも感じられた。一方、授業中のペアトークや全体発表の場では、自分が話し終えると満足し、友達の話まで聞き続けることが難しい児童がいる。本単元では、友達と互いの成長を認め合いさらなる成長を目指すこと、思いやりをもって友達の発言に耳を傾ける経験を積み重ねることを通して、互いを認め合う力を伸ばしていきたい。

5 本単元を指導する上でのポイント

以上を踏まえ、次のように指導し、本研究主題を達成する。

〈視点1〉 児童が課題を自分事とするための工夫

① 学習計画の活用

小単元導入時には、児童の「〇〇をしたい。」という思いを引き出し、共に学習計画を考え、教室に掲示する。児童自身が学習課題を解決するための活動の手順を考え、実践につなげることで、主体的に活動に取り組めるようにする。

② 中学年調査隊

自分たちと中学年の違いを具体的に把握するために、中学年の実態調査を行う。事前に中学年のイメージを共有しておくことで、自分が知りたいこと(新たな教科、学習活動の広がり、校外学習、行事、役割など)を選択できるようにする。質問内容を考えてインタビューを依頼したり、実際に授業の様子を参観したりと、児童自身が知りたいことを解決するための調査計画を立てさせる。また、調査内容を学級内で共有することをめあてとすることで、一人一人の活動に責任をもたせる。調査を通して中学年のイメージを明確化することで進級への期待感を育むとともに、2年生の残り数か月間、進級に向けて自分たちの生活を見直していこうとする意識を芽生えさせたい。

③ クラス目標の活用

一学期から、短期学級目標「クラスの大変身」を、学級で考え、目標達成に向けて継続的に努力している。これまでは、「よりよいクラスにするためには」という視点で目標を設定していた。(タイマー着席をする、プラス言葉をつかう等)今回は本単元の学習と関連させ、「目指すべき中学年になるために」と、自分たちが調べた中学年の姿に視点を置き目標を設定し、日常的に自分や学級の成長を意識して行動できるようにする。

〈視点2〉互いを認め合いながら解決するための手立て

① 友達のよいところに目を向ける経験の積み上げ

【これまでの自分の成長】を振り返る活動では、自己評価だけでなく友達からの他者評価も取り入れる。「いいねカード」を書く際に、同じ班の友達を観察する期間を設け、友達のよい面を探す機会を確保する。内容は、「〇〇が好きなところがいいね。」「いつも〇〇を考えていいね。」など、内面的な良さにも着目させることで、友達の得意なことを確認するだけの活動にならないよう留意したい。

【成長発表会】では感想・質問タイムを設け、一人一回以上の発言を聞き手のめあてとすることで、自分の発表だけで満足するのではなく、友達の成長にも真摯に向き合えるようにする。

また、各教科における振り返り活動では、「〇〇さんの考えを聞いて～」という友達の存在を認識させる視点を与えたり、帰りの会で毎日全員が他者の頑張りを伝え合う時間を設定したりすることで、本单元だけでなく、日常的に互いの存在を意識し、尊重しながら生活する経験を積み上げていく。

さらに、本時の活動では、中学年に向けて学級の課題のみに注目せず、これまで自分たちができるようになったことにも目を向けさせることで、自分個人だけでなく、友達と共に成長することのよさも感じさせたい。

② 思いやりの傾聴の姿勢

話者に対して思いやりをもてるよう、2学期から傾聴の姿勢について学級で考えてきた。「いいね。」「なるほど。」など言葉で伝える【プラス言葉】、うなずきや拍手など動作で示す【プラスリアクション】、「〇〇さんの考えと似ていて～」など、自分と友達の考えをつなぐ【リレー言葉】など、児童から出たよい表現は教室に掲示し、これらの表現がみられたときは全体に紹介して即時評価をする。日常的に傾聴の姿勢を意識させること、そして自分の言葉を温かく受け入れてもらえる喜びを経験させることで、少人数の話合いの場で思いやりをもって話を聞く力を育みたい。

③ ペア(トリオ)活動と、色シールの活用

学級の成長や課題を伝え合う本時の活動では、最初に2、3人の少人数のチームで自分の考えを伝え合う。その際、友達の考えを聞いて自分の考えを変えてもよいことを伝える。全体に自分の考えを共有するときは、2色の色シール(青: 中学年の準備がすでにできている点 赤: まだまだ伸びしろがある点)を一人一枚ずつ黒板に貼ることで、友達の考えが視覚的に分かるようにする。友達の考えを知ることで自分の考えが広がったり深まったりすることも、集団で学ぶ価値であることを伝えていく。

本单元とSDGsとの関連

1年生の生活科では、自分の成長、いわゆる個人としての成長を中心に振り返り活動を行ったが、本单元は個人としての成長にとどまらず、自分たちの学級、つまり集団としての成長まで視野を広げていきたい。2年生にとって日々生活を送る学級は、最も身近であり、最も小さな社会である。これまで自分たちが築いてきた学級の良さ、そして課題に気付き、よりよくしたいという思いを育むことで、今後持続可能な社会づくりの担い手として、課題解決に向き合う素地を養えると考える。

6 指導計画(全14時間扱い)

小単元	・学習活動	知	思	態	◇支援方法 ○評価方法
1 これまでの成長を振り返ろう。(3)	<p>・これまでの自分自身の成長を振り返るためには、どのような活動が必要か考え、学習計画を立てる。</p> <p>・これまでに自分が成長したことを振り返り、レベルアップリストに書く。(1)</p> <p>・友達のよいところ、成長したと感じるところを「いいねカード」に書いて伝え合う。友達の意見を聞いて、自分でも成長を実感できるものはレベルアップリストに追加する。(1)</p> <p>・自分自身の成長についてインタビューしたい人を決め、質問する。(保護者や教員、習い事の先生等)自分でも成長を実感できるものは、レベルアップリストに追加する。(1)</p>	① ②	①	①	<p>◇自分たちで学習計画を立てることで、主体的に活動に取り組めるようにする。</p> <p>◇好きになったこと、考えるようになったことなど、内面的な成長もあることを伝え、たくさんの成長に気付かせる。</p> <p>◇同じ班の友達を観察する日を設けることで、友達の成長に目を向ける機会を確保する。</p> <p>○発言、記述</p>
2 成長の秘密を調べて、発表しよう。(3)	<p>・自分の成長の秘密(努力したこと、工夫したこと、誰かに支えてもらったこと等)を調べ、まとめる。(2)</p> <p>・学級内で「成長発表会」を開き、自分が成長したこと、成長の秘密を伝え合う。(1)</p>	③	① ②	②	<p>◇自分がつくったレベルアップリストの中から考えを深めたい項目を選択させることで、成長できた理由について具体的に考えられるようにする。</p> <p>◇全体の前で発表することを苦手とする児童がいるため、発表する手段(実技、スピーチ、1人で、友達と)を選択できるようにする。</p> <p>◇友達の発表に真摯に向き合えるよう、聞き手のめあても設定する。</p> <p>○発言、記述、行動観察</p>
3 中学年を調査しよう。(4)	<p>・現段階でそれぞれがもつ中学年のイメージ像を共有する。</p> <p>・より明確に中学年について知るためにはどうしたらいいか考え、学習計画を立てる。(1)</p> <p>・調査計画を立て、実際に中学年の児童や教員にインタビューをしたり、授業の様子や掲示物を見に行ったりすることで、中学年の生活の様子を具体的に知る。(2)</p> <p>・調査結果を共有し、中学年になるにあたり楽しみなことを伝え合う。(1)</p>	④	③	③ ④	<p>◇自分たちで学習計画を立てることで、主体的に活動に取り組めるようにする。</p> <p>◇事前に中学年イメージを共有しておくことで、自分が知りたい事柄を選択し、調べられるようにする。</p> <p>◇自分が調べた内容を学級内で共有する時間を設けることで、責任感をもって調べられるようにする。</p> <p>◇楽しみなことを共有することで、進級に向けて希望をもたせる。</p> <p>○発言、記述、行動観察</p>

4 未来へつなごう(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果から、中学年になるために必要な力を考える。 ・どんな中学年になりたいか、そのために残り二か月何を頑張りたいか(個人目標)を考える。(1) ・今の学級の様子を振り返り、すでに中学年への準備ができているところ、これから伸ばしていきたいところを考え、伝え合う。(2) 本時2/2 ・本単元の学習を振り返る。(1) 	④	④	④	<ul style="list-style-type: none"> ◇個人目標が立てられない児童には、友達や教員、保護者から助言をもらう期間を設ける。 ◇個人目標はシールにして机の上に貼ることで、常に意識できるようにする。 ◇学級の課題だけでなく、これまでの成長にも目を向けられるよう2つの視点(いいねポイント・のびしろポイント)を与える。 <p>○発言、記述、行動観察</p>
--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	---	---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7 小単元指導計画 4 未来へつなごう(全4時間扱い)

時	学習活動	知	思	態	◇支援方法 ○評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果から、中学年になるために必要な力を考え、出し合う。 ・どんな中学年になりたいか、そのために残り二か月間何を頑張りたいか(個人目標)を考える。 	④	④	④	<ul style="list-style-type: none"> ◇調べた内容を振り返りながら進級への期待を高めるとともに、①どんな中学年になりたいか ②そのために、残り二か月間何を頑張りたいか、2つの視点を与え、具体的な目標を立てられるようにする。 ◇目標を立てることが難しい児童には、友達や担任、保護者に助言をもらう期間を設ける。 ◇机にシールを張り、日常的に目標を意識できるようにする。 <p>○発言、記述</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・今の学級の様子を振り返り、①いいねポイント(すでに中学年になる準備ができているところ)②のびしろポイント(これから伸ばしていきたいところ)を選択肢の中から選ぶ。 				<ul style="list-style-type: none"> ◇児童が感じた中学年に必要な力を項目分けした選択肢を準備しておくことで、具体的に評価できるようにする。 ◇これまでの学級の様子を思い出せるよう、教室の掲示物を活用する。 <p>○発言、記述</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で選んだ①②と、そう考えた理由を友達と伝え合う。本時 				<ul style="list-style-type: none"> ◇いいねポイントには青シール、のびしろポイントには赤シールを貼ることで、視覚的に友達の考えが分かるようにする。 <p>○発言、行動観察、シール</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・個人目標と、短期学級目標「クラスの大変身」を確認する。 ・本単元の学習を振り返る。 				<ul style="list-style-type: none"> ◇振り返りの際は、本単元で使用したワークシートを見返すことができるよう冊子にしておく。 <p>○発言、記述</p>

8 本時のねらい(14時間扱いの13時間目)

学級の様子を振り返り、進級に向けて必要な力を友達と伝え合っている。

9 本時の学習過程

児童の学習活動	・留意点 ◇支援方法 ○評価【観点】(方法)
1. 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。	・自分たちで考えた学習計画を確認し、前時には学級のこれまでの成長と、これからの課題について個人で考えたことを想起させる。 視点①課題を自分事とする工夫
2年1組の「いいねポイント」と「のびしろポイント」を伝え合おう。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">いいねポイントについて</div> 2. 2,3人チームで、自分が選んだ「いいねポイント」と、選んだ理由を伝え合う。 3. 青シールを貼り、自分が選んだ「いいねポイント」と選んだ理由を学級全体で共有する。	◇考えを伝え合う際は、掲示物に注目させこれまで集めた傾聴の姿勢を想起させる。「プラス言葉」「プラスリアクション」を活用しているグループには、声掛けをして即時に価値付けをする。 視点②互いを認め合いながら解決するための手だて ◇チームの友達の話聞いて、前時の自分の考えを変更してもよいことを伝える。 ◇いいねポイントには青シール、のびしろポイントには赤シールを貼ることで、視覚的に友達の考えが分かるようにする。児童の変容を捉えるために、シールには出席番号を記載する。 視点②互いを認め合いながら解決するための手だて
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">のびしろポイントについて</div> 4. 2,3人チームで、自分が選んだ「のびしろポイント」と、選んだ理由を伝え合う。 5. 赤シールを貼り、自分が選んだ「のびしろポイント」と選んだ理由を学級全体で共有する。 6. 次にみんなで取り組む短期学級目標を決定する。 7. 学習感想を書く。 ①友達の意見を聞いて感じたこと ②みんなで目標を達成するために、自分ができること 8. 次時の見通しをもつ。	・学級の課題を話し合う際に個人名が出ないように、誰かが嫌な思いをしないか考えながら話すよう指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 努力を要する児童の支援 すぐに決断することが難しい児童には、友達の意見を聞いたうえで、授業後にシールを貼ってもよいことを伝える。 </div> ・赤シールが多く集まった項目から順番に、目標達成に向けて取り組んでいく。 視点①課題を自分事とする工夫 ◇振り返りの視点をもたせることで、学習活動の中に友達の存在を認識させたり、これからの生活につなげようとする意識をもたせたりする。 視点②互いを認め合いながら解決するための手だて ○進級に向けて、自分たちが成長していくために必要な力を伝え合っている。 【思④】(発言、行動観察、シール)

未来へのつながり！成長のあしあと～中学年に向けて③～・・・名前(□□□□□□□□□□□□)

2年1組をふりかえり、「いいねポイント」「のびしろポイント」を考えよう。

みんなで考えた、中学年に向けて・ひとつような力

①時間を
守る力

②持ち物の
管理をする
力

③礼儀
正しくする力

④人に
やさしく
する力

えらんだ理由(＜たいてきに)

いいねポイント

(すでに中学年になるじゅんひができているところ)

のびしろポイント

(中学年に向けて、みんながかんはるべきところ)